

第4章 犬、猫の毛皮供出献納運動の実施と結果

4—1 北海道内の実施状況

北海道の「軍需野畜犬、猫毛皮供出献納運動」を実施した機関は北海道庁と大政翼賛会北海道支部、札幌市、大政翼賛会札幌支部、および道内市町村であった。集荷現場の集会所などに連れて来られた犬、猫を処分した後には興農公社苗穂皮革工場に送られ、毛皮や皮革に鞣成された。

表4-1にあるように、初年度の18年度は犬皮のみ2,627枚、19年度は北海道庁が道内各市町村長宛てに割当頭数を通達したことから犬皮1万5000枚、猫も4万5000枚で合計6万枚が供出された。これを種類別にみると、猫が4万5000匹で、犬3万157頭と猫の供出が犬よりも1万5000匹多い。割当頭数と比較してみると、4年間の合計犬3万頭

は、昭和19年度の1年分の割当2万9664頭と同数。猫は19年度だけで4万5000匹供出されており、割当1年分の約7万7000匹の6割が供出されている。換言すれば、18年の戦時中から4年間で北海道内の飼い犬が3万頭、猫は4万5000匹が供出されて殺処分となり毛皮にされたということである。

表4-1 犬、猫毛皮供出献納運動による興農公社の集荷数(北海道内)

年度	犬皮(枚)	犬皮革(枚)	猫皮(枚)	猫皮革(枚)	年度計(枚)
昭和18	2, 627	—	—	—	2, 627
昭和19	15, 000	—	45, 000	—	60, 000
昭和20	7, 330	—	—	—	7, 330
昭和21	5, 200	550	—	10, 827	16, 577
計	30, 157	550	45, 000	10, 827	

『雪印乳業史 第1巻』(1960)より作成。

集荷・処理事業を実施した興農公社は「18年度は兎毛皮だけでは需要を満たすことができず、リス・いたち・きつね・オットセイ、犬、ネズミまで集めて毛皮増産に拍車をかけた。19年度は海軍の発注により犬・猫その他の毛皮を集荷したが、とくに犬、猫については道庁と公社が中核となり、市町村当局ならびに諸団体、公社地方工場の協力を得て、全国的に有名となった献犬、献猫運動を起こした。ネズミは樺太で前年野ネズミが発生し60万枚の毛皮があるという調査から、海軍の買収命令を受け、公社職員が樺太庁と大泊の海軍要港部の援助を求め各地を回ったが大半は既に処分され、ようやく5万枚を獲得することができた」⁽¹⁾という。

4—2 全国の実施状況

全国の犬、猫供出献納運動の実施状況を今回の調査と先行研究の文献に依拠しながら、章末に表4-2としてまとめた。供出された頭数が分っている鳥取県、「回覧会回報」が残っている八王子市、神奈川県についてみてみよう。

4-2-1 鳥取県の実施状況 鳥取県は昭和20年(1945)5月11日発行の『鳥取県公報』第1624号により、高橋庸彌知事が、軍需省化学局長・厚生省衛生局長の連名による「犬原皮増産確保並狂犬病根絶対策」が通達されたので、「狂犬病要綱」に基づいて犬の供出を実施する。ついては、犬を県下の実施会場の12警察署に連れてくるようにと県民に告示した。

実施期間は昭和20年5月11日～30日の19日間にわたる。会場は、13日～15日：鳥取警察署(管内一円)、15日：岩井警察署(同)、16日：若桜警察署(同)、倉吉、米子、境港などの警察署である。ただし、軍犬や猟犬(登録シタル所ニ限ル)、天然記念物指定の日本犬は対象から除くので、飼い主は当日指定の場所に携伴し、狂犬病の検査を受けるようにといった内容である。

昭和20年5月11日 『鳥取県公報』第1624号

軍需省厚生省通牒 犬原皮増産確保並狂犬病根絶対策要綱ニ基キ、畜犬ノ献納受入及供出犬買上並野犬ノ掃蕩ヲ左記日時場所ニ於テ之ヲ施行ス 献納及供出ヲ行ハザル軍犬猟犬(登録シタル所ニ限ル)並天然記念物指定ノ日本犬飼育者ハ各其ノ当日所定ノ場所ニ携伴検査ヲ受クルベシ

昭和二十年五月十一日

鳥取県知事 高橋庸彌

鳥取県では、予め県下の飼い犬の全頭数調査を行い、全頭数は1,800匹と集計している。全頭数調査は、おそらく北海道庁や札幌市と同様に、大政翼賛会の行政末端組織として隣組が統計調査事務として行ったと推測できる。1,800頭の畜犬・野犬のうち、三分の一の656頭が献納されたことが、次の『日本海新聞』に記載されている。

●昭和20年6月13日『日本海新聞』「親子三代犬納物語」

戦ふ日本の軍需皮革としてお役に立てて下さいと、県下千八百匹の畜犬、野犬は今献納、供出運動に応召してゐるが、現在までに応召した畜犬は六百五拾六匹で約三分の一、以下は県衛生課の話。

愛玩、番犬中には「この犬を取られたら生きてゐる気がしない」と哀願する人、「時局は認識してゐるが、大だけはゆるしてほしい、永年家族同様に飼ってきたものだから」と歎願する人また逆に食つてかかるものもあるといった具合でこの傾向は概して有力者とみられる層に多い、然し鳥取市吉方の元市議常田幸治氏などは、分娩して間もない親仔犬を伴れてきて、「仔持ちで可哀そうだがこれも勝つためだ、親仔ともに供出します、もし仔犬の皮が役立たぬならすてゝ頂けがいい、それからこれはこの親犬の親の毛皮でなめたものですが、これも一緒にお役に立てて下さい」と親、子、孫三代の犬をひとときに献納してゐる。

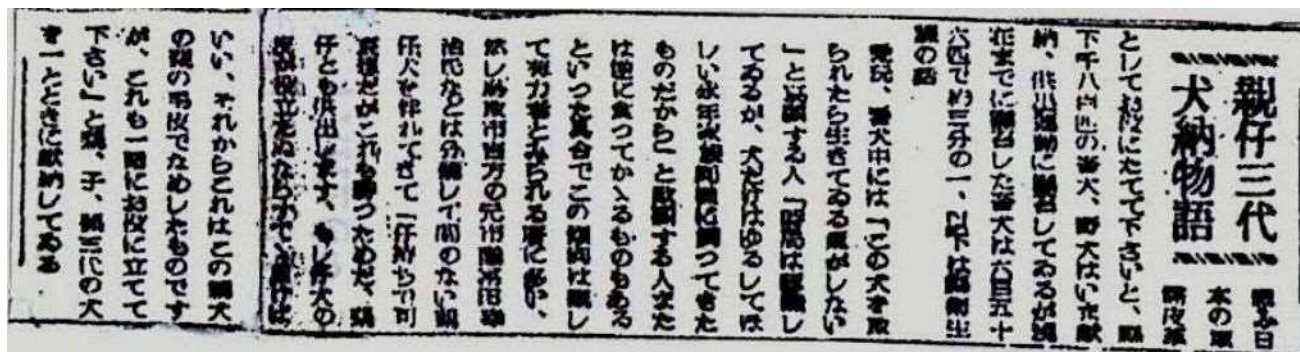


写真4-1 犬656匹の供出を報じる『日本海新聞』(昭和20年6月13日)

見出しが「親子三代犬納物語」。犬は「戦う日本の軍需毛皮」として役立てて下さいと連れてきたという飼い主もいる。かたや可愛がっている人は「この犬を取られたら生きてゐる気がしない」と訴える。番犬まで連れて来て「見逃して欲しい」と哀願する人もいる。逆に食つてかかる人は有力者に多い。しかし、鳥取市吉方の元市議常田幸治氏のように、親子三代の犬を献納した人もいる。親仔といっても祖母・祖父犬はすでに毛皮になった状態。孫犬が小さすぎて国の兵隊さんの服のお役に立てない場合は、祖母・祖父犬の毛皮鞆を身代わりとして役立てて欲しいという。あたたかも孫犬が毛皮(特攻兵)となって国のお役にたつようにという、特攻精神と同じ発想で犬を擬人化し、「報国犬」と美化して書かれている。

一方で記事には、家族同様の愛玩動物なので許して欲しいと歎願する飼い主がかなりいた事も事実として書かれている。

4-2-2 八王子市の場合 同じく擬人化したものに八王子市の回覧板「隣組回報」が呼びかけている。実施主体は大政翼賛会八王子支部と八王子警察署。「勝つために犬の特別攻撃隊を作り、敵に体当たりして立派な忠犬にしてやりませう」「何が何でも皆さんの犬をお国へ献納してください」と献納を強要している。擬人化しお国の為にお役に立ちたいという「滅私奉公」の国民精神総動員運動の標語は日常生活の精神面に深く浸透している。スローガン(目標)はいた

るところで市民の生活に浸透し規制し、地域社会から非国民呼ばわりされて排除されたくないという飼い主の考えが動物にも投影されている。実施日は昭和19年11月の2日間、会場は八王子市役所となっている。

4-2-3 神奈川県の場合 昭和19年(1944)7～8月に実施。獣医師の証言として次がある。「44年(昭和19)当時、狂犬病の蔓延に対して多くの獣医師が戦争にとられて人手不足となり、防疫対策がとれず軍用犬、警察犬、優良犬以外の畜犬の供出を呼びかけた。獣医師、警察署、市町村の協力で7、8月の2か月間で1万7000頭の犬を受受理棄処分した」(『神奈川県獣医師会の六〇年のあゆみ』1986、今川薫『犬の現代史』1996 所載)。

以上のように犬の毛皮供出献納運動は、県公報、新聞、回覧板の情報媒体により各地の様々な標語を使いながら市民・県民・町内会に伝えられた。目

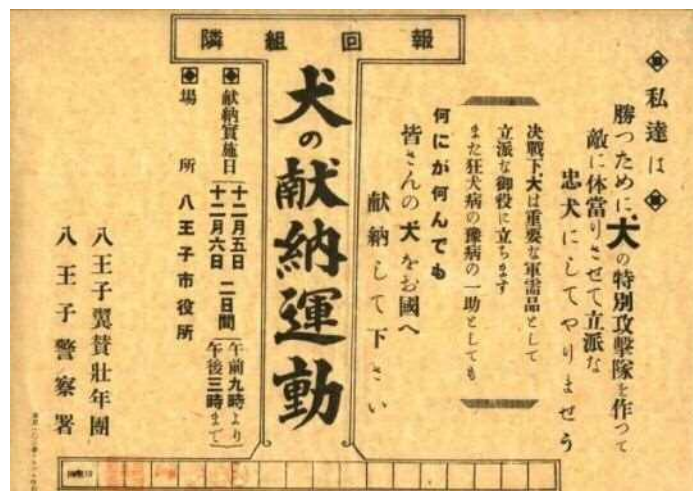


写真4-2 勝つために犬の特別攻撃隊を！と呼びかける隣組回報
昭和19年11月 八王子市郷土資料館提供

的は犬を軍需毛皮として買い取る供出と無料の献納とがある。同時に狂犬病対策を兼ねていることも全国共通の認識として受け止められている。

鳥取県の場合は公文書により検証できる貴重な資料である。公式な通牒により「犬原皮増産確保並狂犬病根絶対策」が正式な運動の名称であることが判明した。『北海道庁公報』に掲載された詳細な実施要綱と全戸の全頭数調査に基づく割当頭数は、「隣組」という詳細な統計調査を実施できる行政末端システムがあり、戦時中だからこそ有効に働いたことを物語る資料として、貴重である。

4-3 犬、猫供出献納運動—二人の証言(札幌在住)

【証言a】昭和20年2月頃 興農公社の殺処分のアルバイトをした

証言者: 国民学校高等科を卒業後のこと。当時15歳の少年。

興農公社の知人から処分作業のアルバイトに誘われた。昭和20年の2月から3月頃の冬に4、5人の処理班とともに岩見沢、滝川、江部乙、新十津川、雨竜町のオシロイカ(尾白利加)川を覚えている。主に農村地帯を馬車で廻り、5日間程度の日程を旅館で宿泊しながら11、12カ所で作業をした。

岩見沢では朝、旅館から出かけて行った。幅1メートルくらいの小さな川の側で、兎や猫を連れてきた人が一列に並んだ。農協の受付係の人が「兎、犬、猫」と書いて、1匹50銭か1円の時もあった。連れてきた人の目の前で、金槌で殺すんだ。怖がっていたよ。自分も怖かった。なるべく苦しまないように眉間を狙うんだ。

滝川では農協の職員が小さな机を置いて、猫や犬を連れてきた人に一匹当たり1円を支払い、帳面につけていた。女性の事務員も一人いた。皮を剥ぐとカマスに入れて塩をぶっかけて、塩漬けにして興農公社に送っていた。友人の一人は作業が怖くなり、途中で止めて自宅に帰った。

今でも忘れられない。時々夢を見る。孫娘から「おじいちゃんは戦争中にそんな悪い事をしていたの」と言われるのが一番怖くて、家族には一言も話していない。「兵隊さんも戦場で戦っているのに、犬もお国のためにならなければ」と言われていた。戦争の時は惨いことをしたもんだ。

(場所: 札幌市文化資料室。2007年6月 西田秀子聞き取り)

【証言b】学校の帰り道 犬猫の処分を見ていた

当時前田村(現・共和町)の集会所 証言者 加藤光則さん(当時10歳)

当時は国民学校の5年生、学校でも白米弁当は姿を消しました。季節風に小雪の舞う寒い日でした。学校の帰り、部落の集会所の空き地に雪穴が掘られて周囲を雪壁でかこってました。その中から男の人の声が聞こえてきて、何だろうと友達と近寄って穴を覗き込みました。で、息を飲んだんですよ。雪穴の中は一面が血の色に染まっていて、雪壁の縁には犬猫の毛皮と裸にされた犬猫が山積みになっていました。

「子どもは来るな」と怒鳴られました。男の人が口の閉じたカマスを金槌みたいな斧みたいなもので数回叩きつけてました。カマスの口を開けた途端に、猫が飛び出して雪壁を駆け上がり、ポプラの木に駆け上った。怖くて身震いしていました。急いで家に帰り、父親に話すと、「犬猫の供出だ。戦地の兵隊さんに送るんだ」と。「農家はネズミ捕るやつ一匹だけ残していいんだ」。それ以来、供出は忘れられません。

(2007年6月 西田秀子聞き取り)

動物の命奪っておいで人間だけが幸せになるなんてできやしませんよ。弾が飛んでくるとこだけが戦場だと理解したら、とんでもないです。

(2015年 談話)

4-4 敗戦と陸軍札幌被服支廠の払い下げ

4-4-1 敗戦と占領された札幌の街 昭和20年8月15日、天皇の終戦の詔勅により8年におよんだ戦争が終わった。北海道は米陸軍の第9軍団が10月4日に函館に上陸、続いて5日に札幌へ進駐した。5日午前10時過ぎ最初のトラックが北一条から入り、中島公園内の北部軍管区司令部に向かった。先導役を務めた札幌署のある警部は「地面が揺れ動くほどの轟音をとどろかせ、重装備の車両群が延々と列を連ねてやってきた」^②という。11時には、北海道拓殖銀行本店新館に先発隊のジープが到着、第77師団のブルース少将と幕僚がつづき、その司令部とした(章末写真4-3の②参照)。東北北海道地区の占領を指揮する第9軍団の司令官ライダー少将は札幌通信局に入った(同①参照)。その後札幌市内の主だったビルのほとんどが接収された。

章末の写真4-3は第77師団の写真担当通信隊が撮影した10月6日の札幌市内の中心部の様子である。①の札幌通信局ビルは空襲を避けるため5階建ての一階部分を除いて外壁が黒く塗られている。同じく⑤の北海道庁赤れんが庁舎、③のグランドホテルも黒く塗り偽装された戦時中のまが写し出されている。④の札幌市役所は北1条西4丁目にある。⑥は北海道新聞社。大通公園西3丁目は戦時中に空閑地利用として市民に貸し出され畑に耕作されている。公園中央に白く写っているものは金属供出された永山武四郎の銅像の台座が残された状態になっている。大通公園内に引いた白い矢印の先端部分に看板が二つ立っている。手前の看板は本誌の表紙を飾っている写真。右側の

札幌案内の看板を見上げているのは、第77師団の若い兵士たちである。ちなみに本誌表紙の写真にある看板には「全札幌市民一同より」とし、北海道は明治期「ホーレス・ケプロン将軍とクラーク博士の指導を受けて発展した。二人に尊敬と感謝の念を持っている。この美しい島の住民の幸福と平和を増進する為にこれからも同様、貴方達のよき指導を切望してやみません」と、ケプロン(左)とクラーク博士(右)の肖像画とともに書かれている。二枚の看板ともに北海道新聞社の製作による。

4-4-2 被服支廠の解散と軍需品引き渡し 敗戦とともに、米軍による兵器の押収と軍需物品類の引き渡しが始まった。陸軍札幌被服支廠の残務処理を担当した安島源一は、本稿1章の図1-1にある終戦時に在籍していた廠員6人のうちの一人で、昭和19年に奉天支廠か札幌支廠かを選ばされて、札幌に赴任した元中尉の証言(章末図4-1参照)。

終戦になって一番思ったことは国民を騙していたということです。私も日本は絶対勝つんだ。だからみんな頑張ってくれと言いました。被服廠ですから、女学生には大した世話になりました。軍隊では下着のことを襦袢というのですがそれを藤高等女学校や庁立札幌高等女学校、市立高等女学校の4年生を動員しまして、随分縫ってもらいました。うちの部隊は兵隊はいないけど、一般の工員が800人くらいいたのです。

アメリカに引き継ぐのに一ヶ月くらいかかりました。軍需物資を集積していた場所は市内に何カ所もありました。学校や体育館とか中学校です。終戦間際に月寒の種羊所に札幌市内が空襲で焼けてしまうから、焼けないところにと、種羊所に羊はいなかったものですから、その場長に頼んで何百台という馬車で札幌市内の被服品を持って行ったのです。アメリカの部隊が入って来て、桑園の被服廠の宿舍を米軍の宿舍に空け渡しました(3)

札幌被服廠が戦後処理で在庫物資を払い下げたなかには、北海道内から輸送配布する樺太・千島の駐屯部隊向けのために、防寒着類が多くを占めていた。防寒靴、防寒手袋など。防寒外套は8,608個在庫があった(4)。この中には札幌被服支廠の在庫が大半を占めているが、それ以外にも帯広で終戦を迎えた第七師団(通称・熊部隊)から返還させた239個、月寒の第五方面軍航空情報隊(通称・達9574部隊)から返還させた312個など、占領軍が来る前に道内の駐屯部隊から返還させている。その種類と数量は驚くほどに多い。兎毛皮6万5276枚は大半を米第77師団へ引き渡し、残りを内務省へ。羊毛糸は庁立高女へ103キログラム、藤高女へ103キロ、市立高女へ70キロ譲渡したが、これは安島の証言通りに女学生への謝礼であったのだろう。残り5万9580キロを第77師団へ引き渡している。安島源一は「アメリカなんかには渡さないで、困っている札幌の市民に分けてやりたいと思いましたよ」(5)という。

札幌被服支廠は、興農公社へ馬皮、牛皮、豚皮、オットセイ皮、野兎毛皮3万枚を払い下げ、カスベ皮1万1300枚を北海道靴履物類統制組合へそれぞれ払い下げた。

他にも戦車帽や憲兵マント、週番腕章など戦場へ赴く将兵が着る服・帽子・靴・そのほか多種類の軍装一式が1万人分程度は常備されていた。これら大量の物資を払い下げた(放出した)。戦時中統制されていた靴業界の靴履物類統制組合と「皮革材料」が放出物資の受入れ窓口になった。札幌の或る靴業者は「軍の物資は被服廠の管理下にあり、桑園の倉庫や伏見の森の中にテントをかけて野積みされるやら、市内の倉庫には満載されていた。一大補給地の北海道は、青函連絡船が閉鎖された場合にも戦力に支障をきたさないだけの物資を北海道に送りこんでいた。それらの大量の放出物が業界の復興に偉大な力を発揮した。崩壊に近かった工場も、販売業者にも商いの途を蘇らせてくれたのは事実だった」(6)と語る。

北海道興農公社は戦後22年(1947)に株式を酪農家、従業員に分散し民主化を図るとともに、社名を北海道酪農協同(株)としたが、昭和25年に財閥解体を目的とした「過度経済力集中排除法」の対象となり、北海道バター(株)と雪印乳業(株)に分割された。

-注-

(1)『雪印乳業史 第1巻』(1960)

(2)『新札幌市史 第五巻通史五(上)』札幌市教育委員会 2002

(3)(5)『語り継ぐ 札幌市民100人の戦争体験 下巻』札幌市、2013

(4)(5)「戦用被服出納簿 昭和二十年」アジア歴史センターC14010282500 戦用被服出納簿 昭和20年度(防衛省防衛研究所)／「昭和二十年 度 戦用被服出納簿 札幌陸軍被服支廠(7)」アジア歴史センターC14010282800 戦用被服出納簿 昭和二十年(防衛省防衛研究所)

(6)『くつ・はきもの北海道の業界のあゆみ』北海道靴履物新聞社 1967

表4-2 全国の畜犬、畜猫供出献納運動の実施状況 昭和18年(1944)～20年(1945)

番号	地域	実施年 (昭和)	対象 動物	理由・内容	実施機関など	処分と その後	頭数 毛皮(枚)
1	北海道 全域	18年～ 20年度	犬、猫	・犬・猫の毛皮を軍へ供出。 狂犬病予防。	北海道庁(経済 第一部・内政 部・警察部)／ 大政翼賛会北 海道支部／北 海道興農公社	興農公社で 毛皮に製 造、一部は 鞣革に製 造。	18年度:犬皮2,62 7枚／19年度:犬1 万5000枚・猫4万5 000枚／20年度: 犬毛皮7,330枚／ 21年度:犬毛皮5,2 00枚・犬革550枚・ 猫革1万827枚
	札幌市	18年～ 20年	犬、猫		市公区係／札 幌市翼賛壮年 団／警察	興農公社 へ。	
	札幌市 新川地区	20年 3月	猫	・町内会を通じて猫の頭数調査。新川橋たも との集合場所に持参するよう通知。	北海道 興農公社		不明
	小樽市	20年 2月	猫	・「回覧板」に自宅の飼い猫の名前があり、兵 士の防寒用の毛皮に供出するように。	警察		不明
	室蘭市	20年	犬、猫	大量の屍骸を裏山で見た。			不明
	岩見沢、滝 川、江部乙、 新十津川、雨 竜町など計1 1個所。	20年 2, 3月	犬、猫	・興農公社のアルバイトで屠殺係を担当した (証言者15歳)「兵隊さんも戦場で戦っている のに、犬もお国のためにならなければ、と言 われていた」。	興農公社とアル バイトで4, 5人。 屠殺係と処理を 担当		約300～400匹
	共和町	20年 2月	犬、猫	・学校帰り、集会所で大量の犬、猫が屠殺さ れて山積みの屍骸を目撃(証言者10歳)。			大量
2	神奈川県	19年 7, 8月	犬	・獣医師の応召により人手不足のため狂犬 病予防対策に支障。軍用皮革に犬毛の活 用。／・供出者へお礼に一頭当たり牛、豚百 匁の肉を交付。警察署で受け付け、犬を連 れた住民が続々と集る。	獣医師／警察 署／市町村	薬殺後、化 製所で肉は 肥料に、原 皮は陸軍 被服廠へ。	1万7000頭
3	東京都 八王子市	19年 11月	犬	・「隣組回報」で呼びかけ。「勝つために犬の 特別攻撃隊を作り、敵に体当たりして立派な 忠犬にしてやりませう」「何が何でも皆さんの 犬をお国へ献納してください」。	八王子翼賛壮 年団、八王子警 察署	不明	不明
4	東京都 中野区	19年 9月5日	犬	・「食糧逼迫の決戦下、人道の為に犬を当局 に供出せられんことを切に希います」			不明
5	東京都下	19年	犬	・獣医が出征し人手不足。狂犬病対策に、咬 傷犬を疑似狂犬病として殺処分。		三河島の化 製所へ。	不明
6	東京都 豊島区池袋	18年 秋頃	犬	・回覧板に「戦地では兵隊さんが戦っていま す。犬もお国の役にたてましょう」。			
7	大阪府 豊中市	19年 11月	犬	・回覧板に「供出」が記載。			
8	鳥取県内鳥 取、岩井、 若桜、米 子、境港等 12カ所	20年5 月13日 ～30日	犬	・『鳥取県公報』第1624号で軍需省・厚生省 通牒により、大原皮増産と狂犬病根絶対策 のため。狂犬病根絶対策要綱に基づき畜犬 の献納と買上、野犬の掃蕩目的、指定の警 察署を告示。	12か所の警察 署		県下1,800頭の畜 犬・野犬のうち656 頭が献納。

出典

番号1:『雪印乳業史 第1巻』(1960)。『新川郷土史』(1980)。室蘭は『語り継ぐ札幌市民100人の戦争体験 上巻』(2013)。

小樽は井上こみち『犬やねこが消えた 戦争で命をうばわれた動物たちの物語』(2007)。

岩見沢など計11個所は証言者(2007西田聞き取り)。共和町は証言者(2007西田聞き取り)。

番号2・3・4:『神奈川県獣医師会の六〇年のあゆみ』(1986)・『神奈川県狂犬病予防概史』(1966)―いずれも、
〔今川勲『犬の現代史』(1996)〕所収。八王子市所蔵「隣組回報」(1944)、『中野区民生活史』(1985)。

番号5:上木英人『東京狂犬病流行誌』(1966)〔前掲今川〕所収。

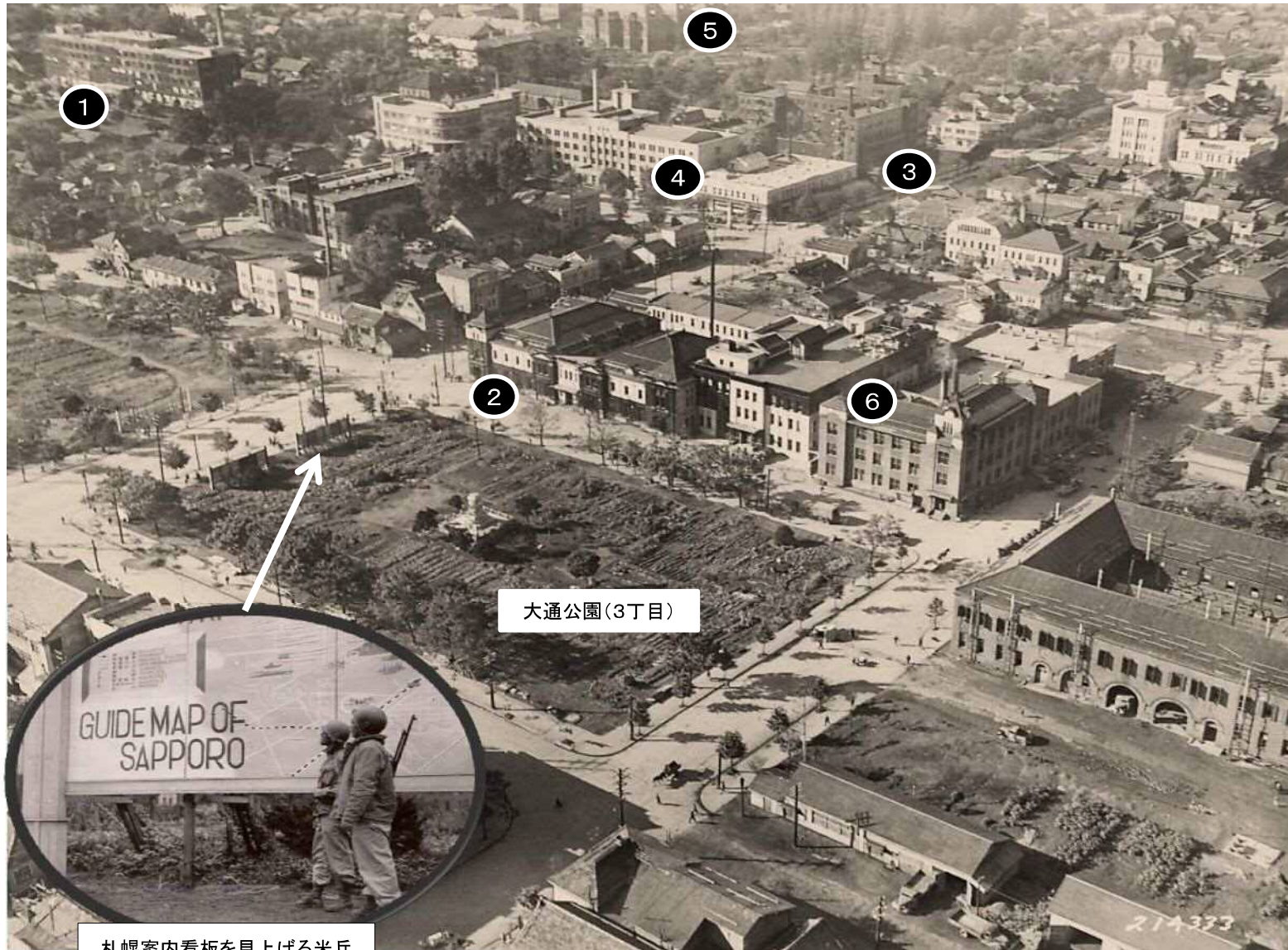
番号6・7:井上こみち前掲『犬やねこが消えた』。

番号8:『鳥取県公報』(第1624号、昭和20年5月11日)、『日本海新聞』(昭和20年6月13日付 鳥取県公文書館蔵)。

注) *印の北海道のみの頭数は、出典の『雪印乳業史 第1巻』(1960)に記載あるもの。

*21年度の集荷頭数の犬革・猫革は毛皮を鞣したものをさす。新たに集荷したのは犬毛皮7,330頭。

写真4-3 米軍に占領された札幌中心地のビル 1945年10月現在



- ①札幌通信局ビル(北1条西6丁目
現・アーバンネット札幌ビル)
→★第9軍団司令部が接收。
- ②北海道拓殖銀行本店ビル(大通西3丁
目)→★第77師団司令部が接收。
- ③札幌グランドホテル(北1条西4丁目)
→★第9軍団将校、憲兵司令官宿舎
に接收。
- 以下は接收されていない。
- ④札幌市役所(北1条西4丁目)
- ⑤北海道庁(北3条西6丁目 赤レンガ)
- ⑥北海道新聞社(大通西3丁目)

注1)1945年10月6日米軍撮影より
作成。福林徹氏提供 米国立公文
書館所蔵

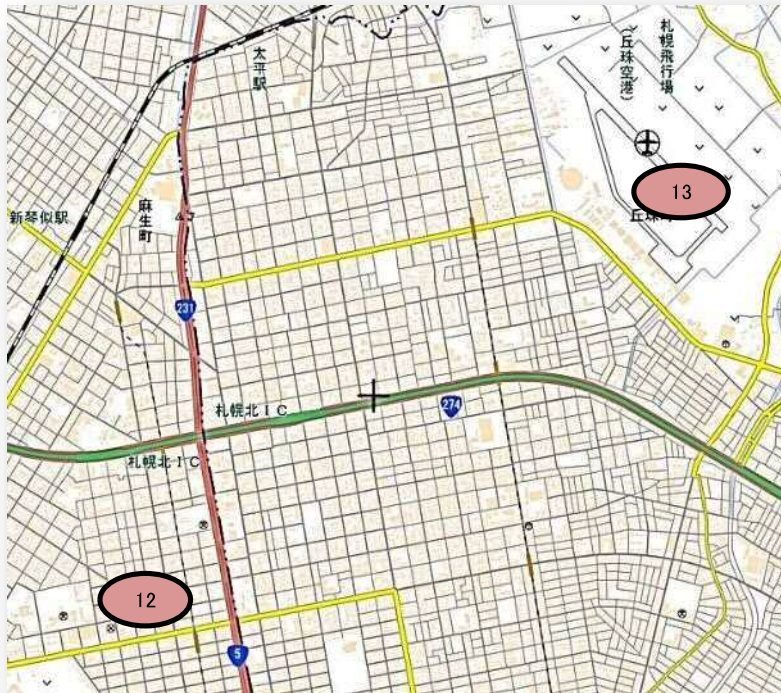
注2)①通信局ビル(1階を除き5階まで)、
②拓銀本店ビル、③グランドホテル、
⑤道庁赤レンガ、⑥道新ビルの外壁は、
空襲を避けるため黒く塗られている。

注3)大通公園3丁目が空閑地利用で、
畑に耕作されている。公園中央に白く
映るのは、金属供出された永山武四郎
銅像の台座。

注4)左下の「札幌案内看板を見上げる
米兵」は、北海道新聞社が米第77師団に
友好を呼びかけて製作した看板2枚のうち
の1枚「ガイドマップ」。他の1枚には「全札
幌市民一同より」とし、北海道は明治期
「ホーレス・ケブロン将軍とクラーク博士の
指導を受けて発展した。二人に尊敬と感謝
の念を持っている。この美しい島の住民の
幸福と平和を増進する為にこれからも同
様、貴方達のよき指導を切望してやみませ
ん」と、ケブロンとクラーク博士の肖像画とと
もに書かれている。

図4-1 札幌市内の主な軍事施設と札幌被服支廠関連施設略地図

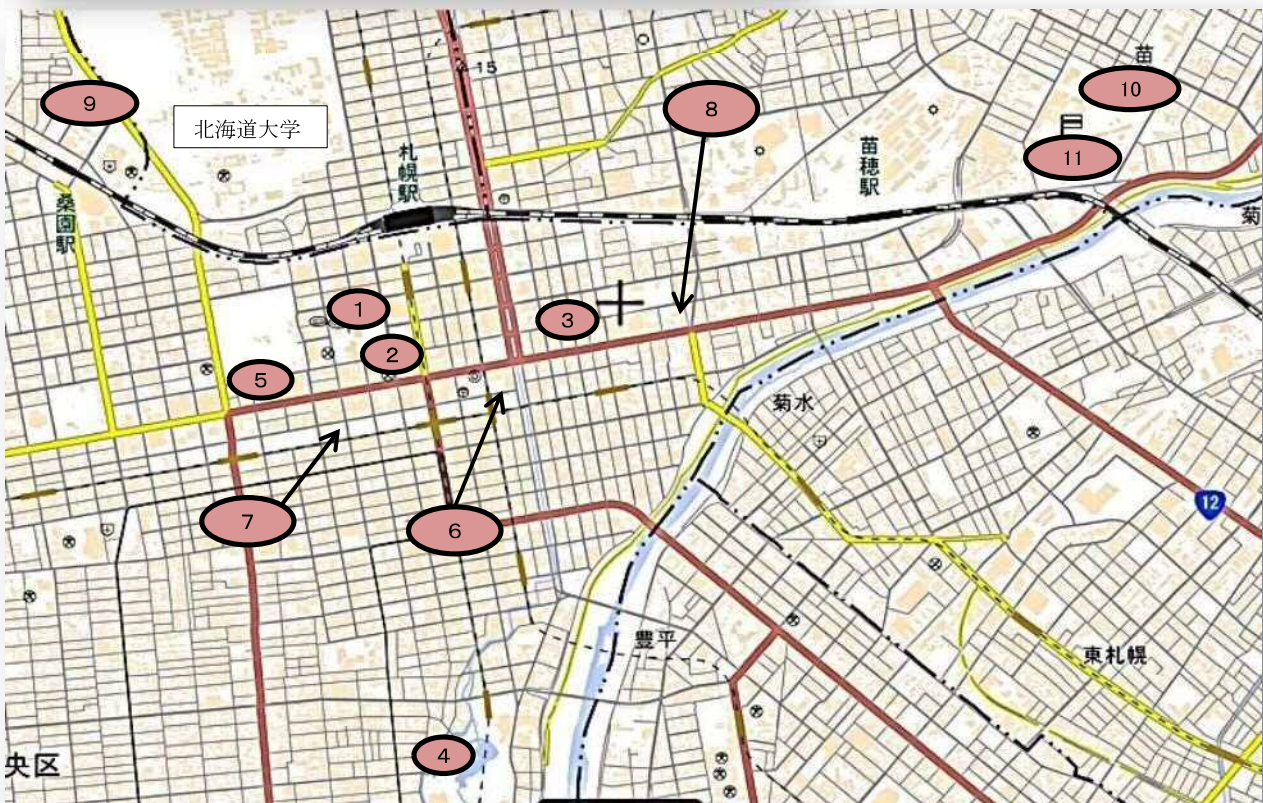
昭和20年(1945)8月15日現在



〔北部〕

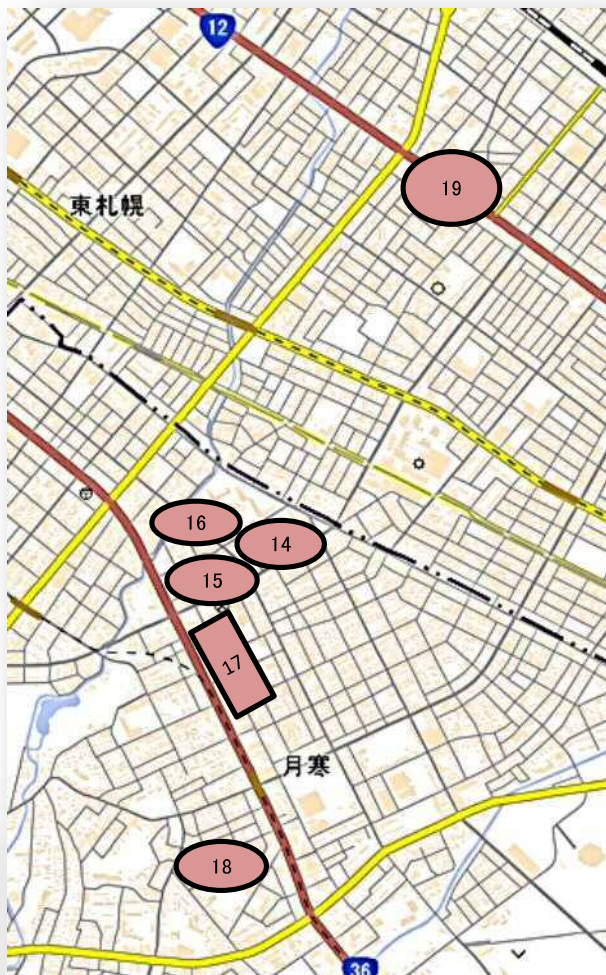
⑫札幌飛行場
(北区北29条西5～13丁目)

⑬札幌(丘珠)新飛行場→★
(北区丘珠、現・丘珠飛行場)



〔中心部〕

- ①北海道庁(中央区北3条西5丁目)
- ②札幌市役所(中央区北1条西4丁目 1971年現在地北1西2に新築移転)
- ③札幌憲兵隊司令部(中央区北1条東2丁目)
- ④北海道憲兵隊(中島公園)→★
- ⑤札幌連隊司令部(中央区北1条西10丁目)→★
- ⑥札幌陸軍被服支廠(中央区大通西1丁目、北光教会を接收)
- ⑦札幌陸軍被服支廠倉庫1(中央区大通西7丁目、独立教会を接收)
- ⑧札幌陸軍被服支廠倉庫2(中央区北1条東6丁目、カトリック北一条教会を接收)
- ⑨札幌陸軍被服支廠宿舎(桑園駅北側、現・JR本社ビル、市立札幌病院の一部)→★
- ⑩北海道興農公社皮革工場(東区苗穂)
- ⑪陸軍糧秣廠札幌支廠(東区苗穂、現・陸上自衛隊施設)→★



〔豊平・白石〕

- ⑳北海道種羊場
(敗戦直後に被服廠物資を隠匿、農林省羊ヶ丘)

- ⑭第五方面軍(北部軍)司令部(豊平区月寒、現・月寒中学校附近)→★
 ⑮第五方面軍司令官官邸(豊平区月寒、現・つきさつ郷土資料館)→★
 ⑯北部軍管区司令部防空作戦室(豊平区月寒、国家公務員宿舎)→★
 ⑰歩兵第二十五連隊兵営(豊平区月寒、現月寒高校付近一帯)→★
 ⑱北海道陸軍病院(豊平区月寒)→★
 ㉑北海道陸軍兵器補給廠(白石区、現・白石区役所付近一帯)



〔厚別〕

- ㉑北海道陸軍兵器廠
 附属厚別弾薬庫→★
 (厚別区、現・JR新札幌駅周辺)

注1) 所在地は当時。住所は平成28年(2016)表示。国土地理院「2016年1月29日更新 基盤地図情報 電子国土基本図(地図情報)644152,644153,644142,644143」をもとに番号を付して作成。

注2) 『新札幌市史』第4巻通史4、『旧北部軍管区司令部防空作戦室 記録保存調査報告書』(札幌市 2008) などから作成。

注3) →★……昭和20年(1945)10月に米軍に接収された施設。